

RESAS

を分析してみよう

秋田県
大館市

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

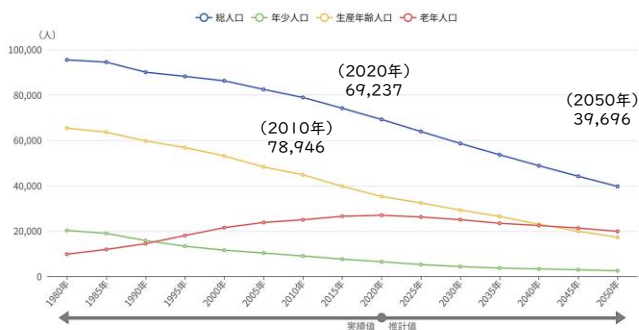
人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



人口推移グラフ
秋田県大館市



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楳原町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口推移

年齢別人口推移

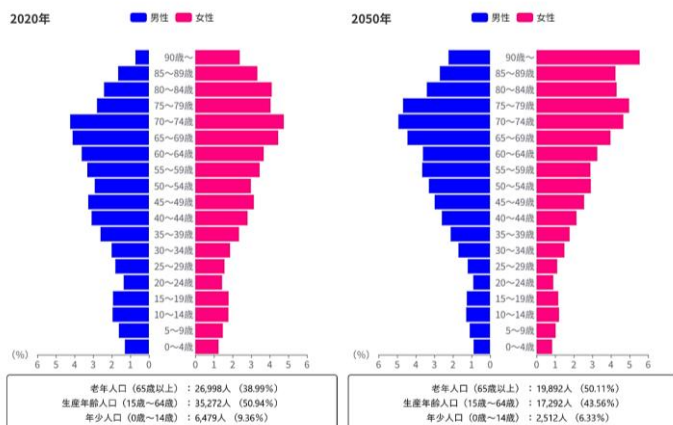
2020年の人口は総人口69,237人。10年前（2010年）の78,946人と比較すると12.3%減少しており、2050年にかけてさらに減少傾向が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口、生産年齢人口、老年人口全てが減少しているが、特に生産年齢人口の減少傾向は大きく、比較して老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つば型」である。老年人口の割合をみると、2020年の38.99%から2050年には50.11%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の50.94%から43.56%まで減少する見込みである。

人口ピラミッド
秋田県大館市

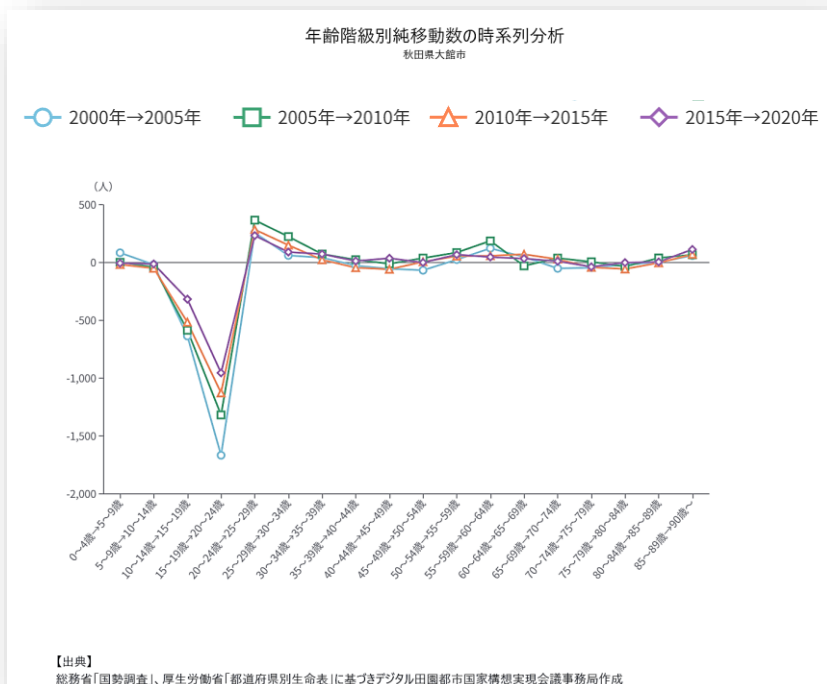


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楳原町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

年齢階級別純移動数時系列分析

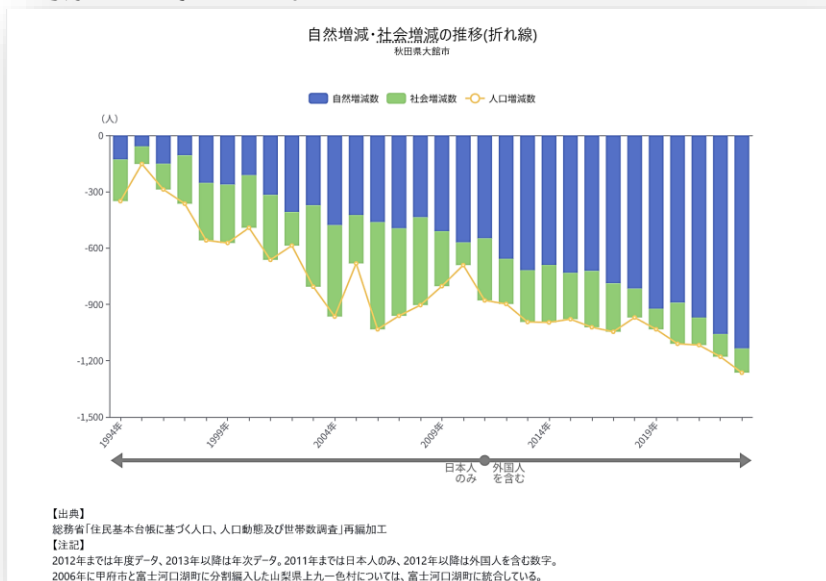
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時（15～19歳→20～24歳）に人口が流出し、就職時（20～24歳→25～29歳）に人口が少数流入する。以降、高齢層まで移動数が少ない、定住傾向が強い地域であると考えられる。



＊人口マップ→社会増減分析→人口移動

自然増減・社会増減の推移

自然増減数（出生数から死亡数を引いた値）と社会増減数（転入者数から転出者数を差し引いた数値）の推移を示したグラフである。2006年から2010年に人口減少が一時的に緩和した理由は、市町村合併後の転入増・住民移動の安定、若年層の転出が減少（リーマン前の全国的な雇用改善期）、地元産業の雇用安定、自然減がまだ小さかったなどが考えられる。2011年以降に人口減少が再加速した理由は、東日本大震災後の地域経済の停滞、団塊世代の高齢化による死亡数の急増、若年層の進学・就職による県外流出増、地元企業の縮小、人手不足、全国最速レベルの少子化の進行などが考えられる。



＊人口マップ→人口増減分析→グラフ

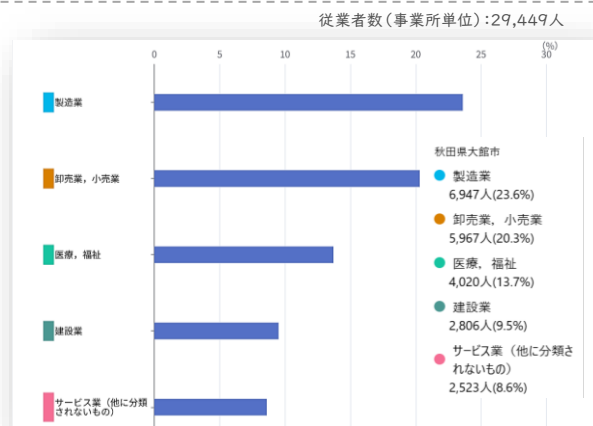
産業構造



※産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)

事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

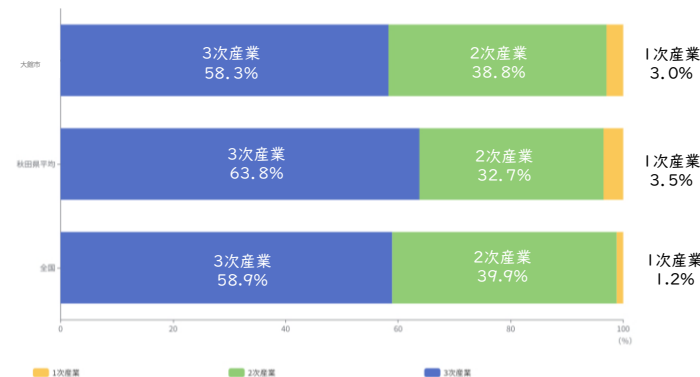
業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の827事業所で、全体の26.4%を占めている。その後「生活関連サービス業、娯楽業」の339事業所の10.8%が続く。



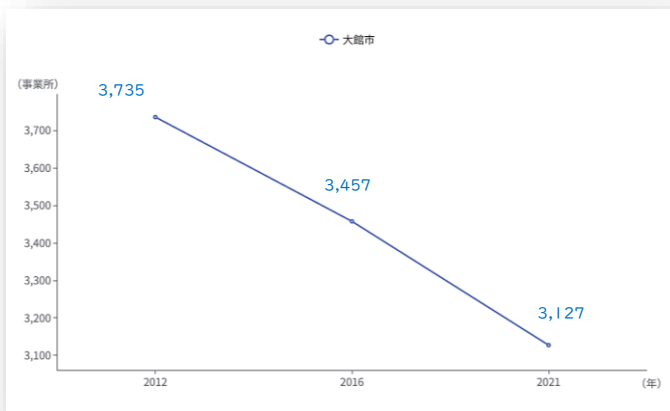
※産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)

従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の6,947人で、全体の23.6%を占めている。その後「卸売業、小売業」の5,967人の20.3%が続く。



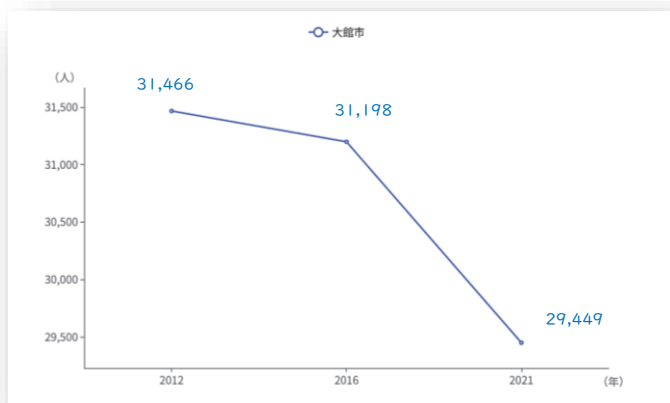
※地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造



※産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は3,127事業所であり、5年前の2016年は3,457事業所だったので、比較すると9.5%減少している。



※産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数の推移 (2021年)

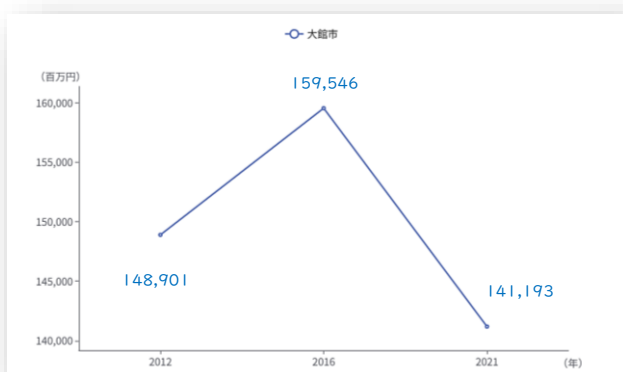
従業者数の推移をみる。2021年は29,449人、5年前の2016年は31,198人だったので、比較すると5.6%減少している。また、2012年と比較すると6.4%減少している。

地域内産業の構成割合 (2018年)

大館市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および秋田県と比較したグラフである。3次産業の割合が58.3%であり、全国および秋田県平均と比べて低い。一方、2次産業の割合は、38.8%と全国平均より低く、秋田県平均に比べて高い。

※1次産業…農業、林業、漁業など
 ※2次産業…製造業、建設業、工業など
 ※3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



*産業構造マップ→産業構造→推移

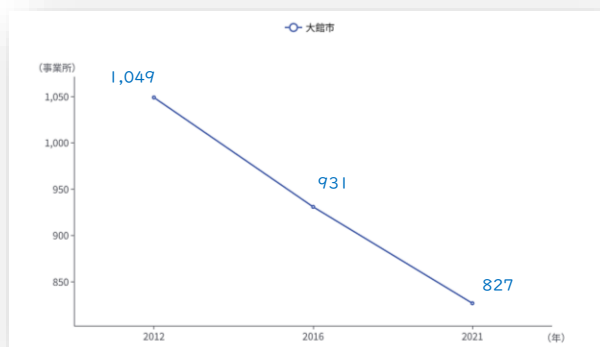
売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は141,193百万円である。9年前の2012年と比較すると148,901百万円なので、5.2%減である。

2012から2016年に売上高が増えた理由は、景気回復で消費が増加、商業施設の更新・ドラッグストア等の出店増、観光・イベントによる集客効果があったことなどが要因として考えられる。2016から2021年に売上高が減った理由は、人口・若年層の減少で地元消費が縮小、ECシフトによる実店舗売上減に加え、コロナで小売・卸売ともに大幅ダウンしたことなどが要因として考えられる。

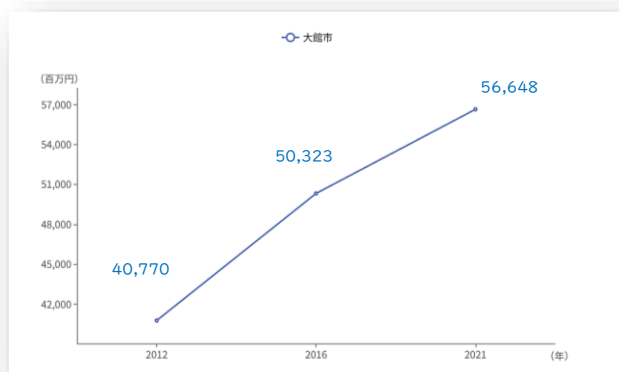
事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は827事業所、2016年は931事業所であり、2016年と比較すると、11.2%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



*産業構造マップ→産業構造→推移

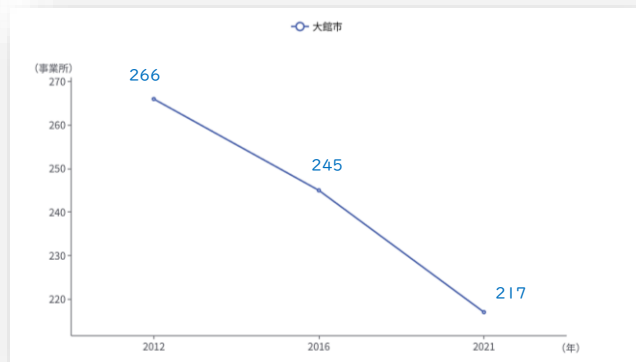
売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、56,648百万円である。9年前の2012年と比較すると40,770百万円なので、38.9%増である。

2012から2021年の売上高増加は、円安・景気回復で製造需要が増加、食品加工(比内地鶏など)の売上増、医薬・健康関連の需要増などが要因として考えられる。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は217事業所、2016年は245事業所であり、2016年と比較すると、11.4%減となっている。

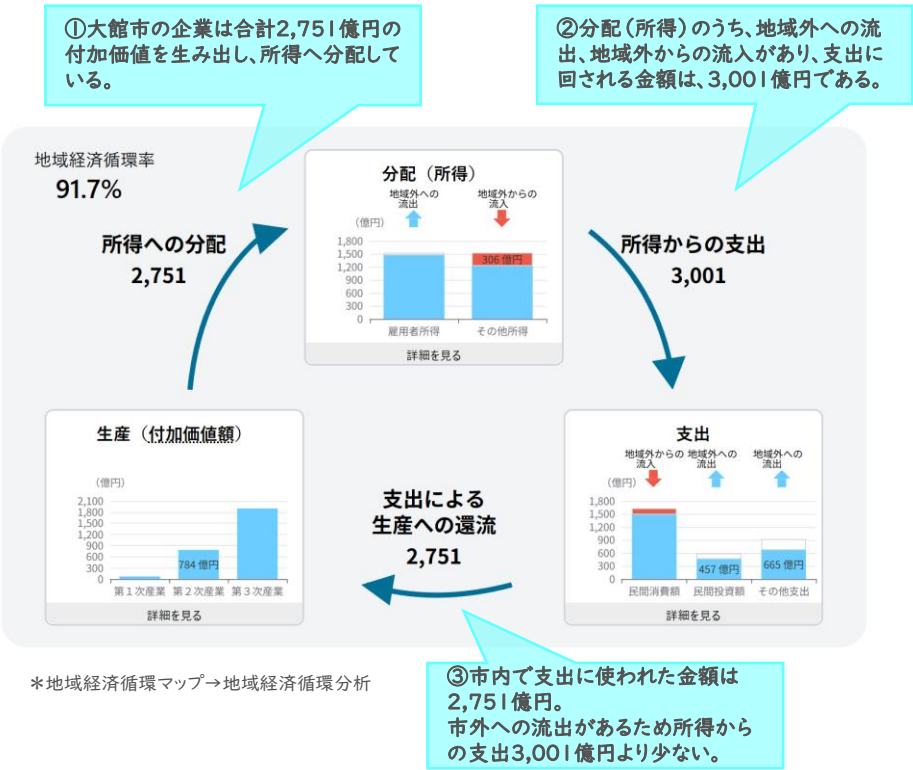


*産業構造マップ→産業構造→推移

地域経済循環

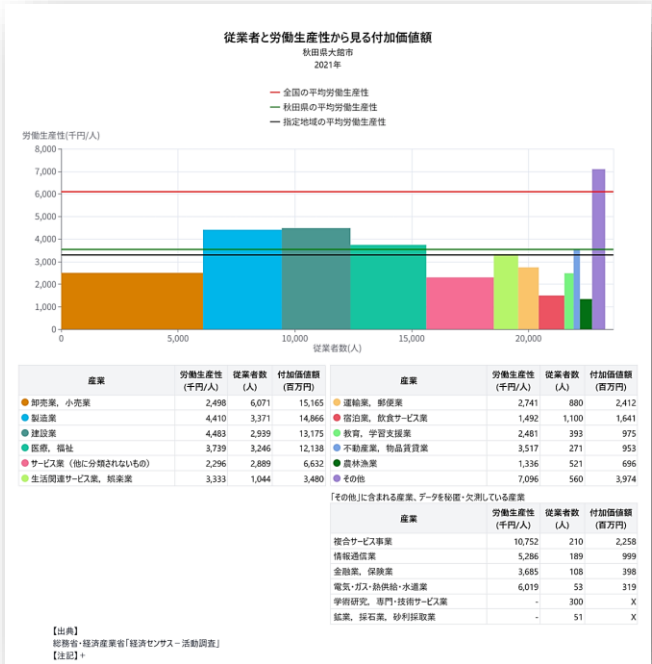
地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

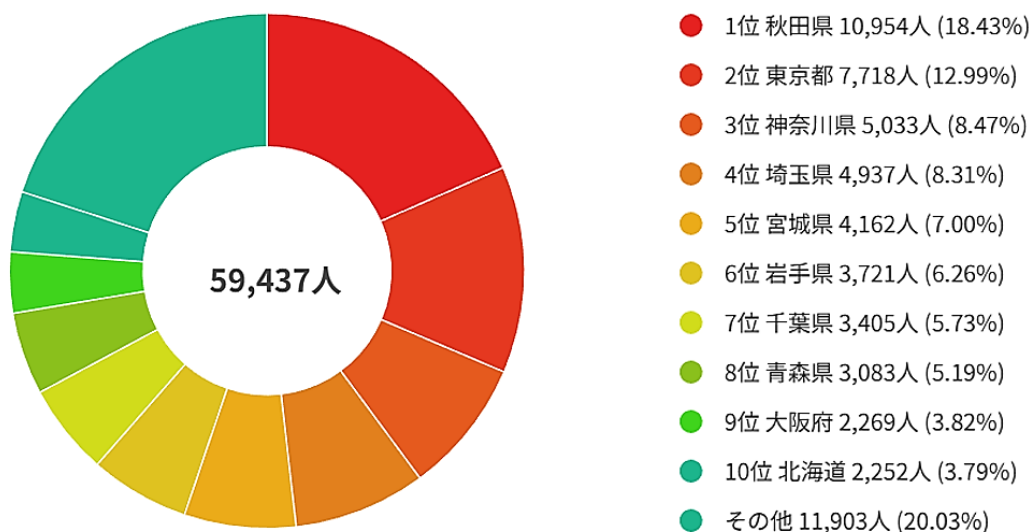
X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。
付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。大館市では、「卸売業、小売業」の付加価値額がもっとも大きく、「製造業」、「建設業」の順に続く。



*地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。秋田県が18.43%と最も多く、東京都の12.99%、神奈川県が8.47%が続く。

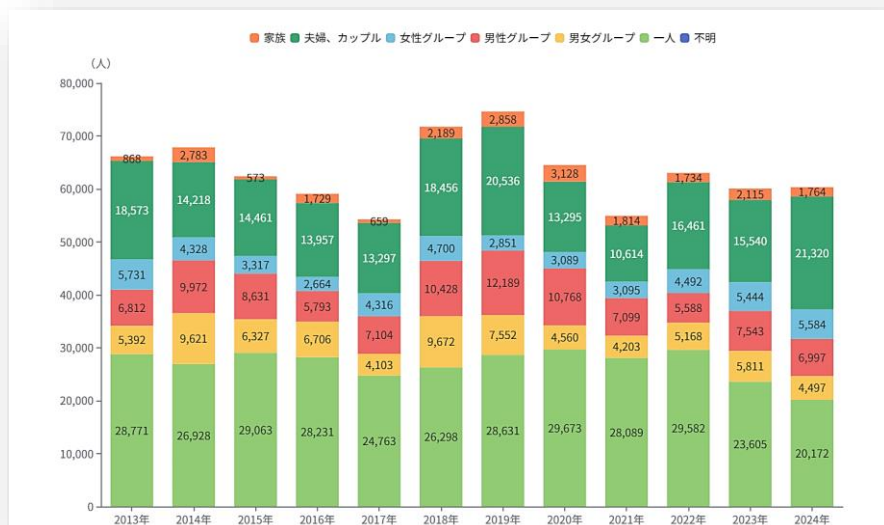


*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっとも多いのは、「夫婦、カップル」の21,320人、その後、「一人」の20,172人、「男性グループ」の6,997人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る